

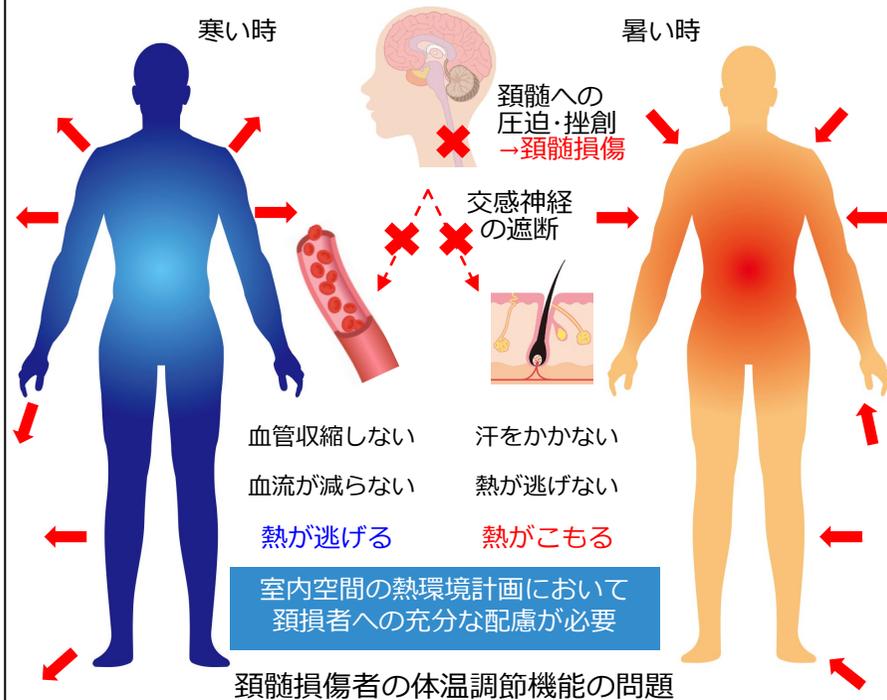
障害者の自立と社会参加を支援する研究及び開発の推進

◎ 障害者の社会参加促進を加速するコア技術の開発

■ 障害者の体温調節支援方法の開発等

研究課題：頸髄損傷者の至適温湿度範囲に関する研究

- ・ 頸髄損傷者の重篤な体温調節障害は、社会参加を阻害する要因の一つであるため、早急に頸髄損傷者の温熱環境の計画・評価方法を確立する必要がある。
- ・ 夏期、中間期、冬期の実験用衣服を着用して人工気候室実験を行い、頸髄損傷者の季節ごとの至適温湿度範囲*を推定する。
- ・ 推定した至適温湿度範囲は、当事者及び介護者にとって、**室内空間（住宅、自動車等）の温湿度を調節する際の目安として利用できる**ことが期待される。*体温変化が起きにくい温湿度範囲



■ 研究の流れ

令和5年度	蓄積されている人工気候室実験のデータに加え、頸髄損傷者10名の実験データを新たに追加、中間期（春・秋）の至適温湿度範囲を推定した。その結果、室温 $25 \pm 1^\circ\text{C}$ 、相対湿度50～70%と推定された。
令和6年度	頸髄損傷者10名を対象として人工気候室実験を行い、夏期の至適温湿度範囲を推定する。
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頸髄損傷者10名を対象として人工気候室実験を行い、冬期の至適温湿度範囲を推定する。 ・ 中間期、夏期、冬期の至適温湿度範囲を、当事者及び介護者が理解しやすいように図示化（指標化）する。



人工気候室実験の様子の一例